

学校编码: 10384

分类号

密级

学号: 12220071151821

UDC

厦門大學

硕士学位论文

翻訳者の位置づけ
——ベンヤミン、欧陽楨の翻訳論を媒介に

翻译者的身份定位

——以本雅明、欧阳楨的翻译论为媒介

周琳

指导教师姓名: 吴光辉 副教授

专业名称: 日语语言文学

论文提交日期: 2010年4月

论文答辩时间: 2010年6月

学位授予日期: 2010年 月

答辩委员会主席: _____

评阅人: _____

2010年5月

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下，独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果，均在文中以适当方式明确标明，并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范（试行）》。

另外，该学位论文为（）课题（组）的研究成果，获得（）课题（组）经费或实验室的资助，在（）实验室完成。（请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称，未有此项声明内容的，可以不作特别声明。）

声明人（签名）：

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

1. 经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

2. 不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

「翻訳者の位置づけ」という問いは、現代翻訳理論の最も大きな課題の一つとして、多くの研究者によって注目されている。言語学であれ、文化論であれ、主体性の哲学であれ、いずれも今までの立場に反省を行った上で、この問題の解明に目を向けるようになった。本論では、ポスト構造主義の代表者の二人、ドイツの学者ベンヤミンとアメリカの学者欧陽楨の翻訳理論を取り上げ、翻訳者の位置づけという問題を解決する手がかりを求めようとする。

ベンヤミンはかつて、読者を翻訳の領域から追い出し、翻訳活動を翻訳者による「純粹言語」への叙述と理解している。しかも、氏は「聖書」の翻訳を考察の対象にし、「神様」が唯一の「作者」であるという命題を暗示した。したがって、翻訳者は自ずから神様の代弁者となり、翻訳者に課せられた翻訳の課題は、いわゆる「純粹言語」の発見ということになる。

欧陽楨は、「翻訳は神様の啓示である」という命題に、あくまでも異議を差し挟んでいる。「誰が神様の啓示を受けたか、誰が受けなかったか、それを判断する客観的な標準は、われわれは持っていない。」というのが最大の問題である、と彼が指摘している。したがって、欧陽楨は「二重の読者」という概念を提出し、つまり、「原文の解釈者であるし、訳文の解釈者でもある。」と主張している。

ベンヤミンの立場というとは、いわゆる「作者重視」の立場である。それに対して、欧陽楨の立場は、読者の復権を目指している「読者指向」の立場である。したがって、ベンヤミンのほうが、作者・作品の側に立っているのに対して、欧陽楨のほうが、訳文・読者の側に立っている。両者は全く相反する立場に

互いに対峙している。ただし、両者はそれに必ずしも満足するものではない、むしろ「純粹言語」か「透明な目」という独特な概念を提出し、翻訳活動のプロセスを全体的にコントロールしようとするのである。

この二つの立場を踏まえて、われわれは、翻訳者の位置づけは、解釈者・翻訳者・評価者という三つの「身分」なのであると提出する。詳しく言えば、まず、原作を理解しながら、作者の存在を暗黙のうちに求める解釈者である。次に、原作を翻訳しながら、作者と対話を試みる翻訳者である。最後になると、訳文を反省しながら、自ら読者の立場に変わり、翻訳者の自己と「対話」を行う評価者である。

キーワード：翻訳学；ベンヤミン；欧陽楨；翻訳者の位置づけ

摘要

作为现代翻译理论最大的课题之一，“翻译者的身份定位”这一问题得到了众多研究者的关注。不管是语言学，还是文化论，抑或是主体性的哲学，皆在反思自身过去的立场的基础上，将视角转向了这一问题。本论文即以以后结构主义的代表人物德国学者本雅明和美籍华裔学者欧阳桢的翻译理论为媒介，试图寻求解决译者的身份定位这一问题的线索。

本雅明曾经将读者驱逐出翻译的领域，把翻译活动理解成为翻译者朝向“纯语言”的叙述。而且，他将《圣经》的翻译作为研究对象，暗示了只有上帝才是唯一的“作者”这一命题。翻译者便是上帝的代言人，加诸在其身上翻译的核心任务也就是发现“纯语言”。

与此相对，欧阳桢对“翻译是上帝的启示”这一命题始终抱有怀疑。他指出这一命题的最大问题在于我们缺乏一个客观的标准去衡量究竟谁领受了神的启示，谁却没有领受。因此，欧阳桢提出了“双重的读者”这一概念，强调读者既是原作的阐释者，又是译作的阐释者。

不言而喻，本雅明站在了“重视作者”这样一个立场。与此相对，欧阳桢则是站在旨在为读者复权的“读者指向”立场。由此，我们或许可以发现，本雅明是站在作品以及作者这一方，欧阳桢则是站到了译作和读者这一方，从而形成了一个彼此间的对立。但是，二者并没有满足于彼此各自的立场，无论是“纯语言”还是“透明的眼睛”，他们之所以提出这样的独特概念，应该说皆是希望能从一个整体的视角来把握翻译的整个过程。

基于二者的立场，我们提出，翻译者的本质是一个融汇了“解释者——翻译者——评价者”三者为一体的身份定位。具体而言，即翻译者首先是一个在理解

原作的同时也默默地寻找作者之存在的解释者；其次，翻译者从事翻译活动之际，转变为了试图与作者进行对话的翻译者；步入翻译的最后阶段，翻译者则是成为了反思译文，且把自己放在读者的立场来与作为翻译者的自己进行“对话”的评价者。

关键词：翻译学 本雅明 欧阳桢 翻译者的身份定位

厦门大学博硕士论文摘要库

目次

序言	1
第一節 翻訳とは何か	1
第二節 先行研究と問題意識	2
第三節 本論の組立て	5
第一章 翻訳という概念の「多様性」	7
第一節 言語学における翻訳の概念	7
1.1 翻訳の定義と言語学の問題	7
1.2 「原文中心主義」と翻訳者主体性の隠蔽	8
1.3 翻訳基準の中の「原文中心主義」	9
第二節 文化的コミュニケーションとしての翻訳	11
2.1 翻訳者の登場	11
2.2 翻訳の主体性への注目	13
第三節 主体性哲学における翻訳の概念	14
3.1 翻訳の主体性	15
3.2 解釈学や受容美学の立場	16
3.3 翻訳の主体性への考察	17
第二章 ベンヤミンの翻訳論	20
第一節 ベンヤミンと「翻訳者の課題」	20
第二節 ベンヤミンの言語論——純粹言語と器の断片説	22
第三節 ベンヤミンの翻訳思想	25
3.1 「翻訳」による「純粹言語」への解放	27
3.2 形式の再現	29
3.3 翻訳者と読者の関係	30
第三章 欧陽楨の翻訳論	34
第一節 欧陽楨と「透明な目」	34
第二節 欧陽楨の翻訳論	35

2.1 原作の権威性への疑い.....	36
2.2 文化的融合の媒介としての翻訳者	38
2.3 読者反応への関心.....	40
第四章 翻訳者の位置づけ	44
第一節 間主体性と翻訳活動の循環.....	44
第二節 翻訳者の位置づけ.....	49
結論	53
参考文献.....	55
謝辞.....	60

目 录

序言	1
第一节 何谓翻译	1
第二节 先行研究与问题意识	2
第三节 本文构成	5
第一章 翻译概念的“多样性”	7
第一节 语言学下的翻译概念	7
1.1 翻译的定义与语言学的问题	7
1.2 “原文中心主义”和翻译者主体性的隐蔽	8
1.3 翻译标准中的“原文中心主义”	9
第二节 作为文化交流的翻译	11
2.1 翻译者的登场	11
2.2 翻译主体性的关注	13
第三节 主体性哲学下翻译的概念	14
3.1 翻译的主体性	15
3.2 阐释学和接受美学的立场	16
3.3 翻译主体的考察	17
第二章 本雅明的翻译理论	20
第一节 本雅明及其《译者的任务》	20
第二节 本雅明的语言观—纯粹语言和语言碎片说	22
第三节 本雅明的翻译思想	25
3.1 通过翻译来实现以纯粹语言为目的的解放	27
3.2 形式的再现	29
3.3 译者和读者的关系	30
第三章 欧阳桢的翻译理论	34
第一节 欧阳桢与《透明的眼睛》	34
第二节 欧阳桢的翻译理论	35

2.1 针对原作权威性的质疑.....	36
2.2 作为文化融合媒介的翻译者.....	38
2.3 针对读者反应的关注.....	40
第四章 翻译者的身份地位.....	44
第一节 主体间性和翻译活动循环.....	44
第二节 翻译者的身份地位.....	49
结论.....	53
参考文献.....	55
谢辞.....	60

序言

第一節 翻訳とは何か

翻訳とは何か、という問いに対して、大雑把に言えば、二つの解明する立場があると考えられる。一つは言語学の立場である。もう一つは、文化論の立場である。

言語論の立場から考えれば、まず、『現代漢語辞典』において、「翻訳とは、一つの言葉・文字の意味をもう一つの名詞・文字で表すことである。方言と民族共通語、方言と方言、古代語と現代語の間の名詞・文字の転換をも指す。」と概念を下されている。アメリカの学者ナイダ (Eugene A. Nida) によれば、「翻訳とは、語義から文体まで、訳語の中で最も近く、最も自然に対応する言葉で、原語の情報を再現することである。」^①と解釈している。言い換えれば、言語論の立場から翻訳とは何かという問題を考える場合、言葉・文字の意味的転換のみならず、その形式或いは文体さえも転換すべきであると、理解してもよかろう。

文化論の立場から考えれば、「翻訳は文化の対話である」とよく言われるように、言葉・文字の背後に隠される文化の意義をより強調し、文化の意義の翻訳は、翻訳と言う活動の到達点にならざるをえないと主張されている。たとえば、郭沫若が「翻訳は一つの創造する活動である。」と主張し、錢鐘書は「文学翻訳の最高の基準は、化ということにある。」と強調している。^②それとともに、シーエルは、「翻訳は言語間・文化間の交際する過程である。この過程の

^① 李文革. 2004. 西方翻译理论流派研究[M]. 北京: 中国社会科学出版社, 第 115 页.

^② 吴光辉、周琳. 2008. 翻译学建构与翻译教学[J]. 厦门大学学报. 教学研究专辑, 第 13 页.

中で、原語に分析を加えることを踏まえ、言語的・文化的媒体を利用し、言語のコンテキストを置き換えるもう一つの、異次元的なコンテキストを創造する。」^①すなわち、翻訳は文化的転換或いは再生にもつながるように主張されている。

言語論の立場からも文化論の立場からも、ただ「翻訳とは何か」という概念の解釈に注目すれば、言葉・文字の転換であれ、文化の対話であれ、概念が成立する前提としての「主語」が欠如していると明らかに現れている。言い換えれば、転換する主体、対話の主体とはいったい誰か、という問題が無視されている。このような概念の不完全な問題に対し、王克非は「翻訳とは、翻訳者が一つの言葉・文字の意味をもう一つの言葉・文字の形で表す文化的活動である。」^②と理解している。王氏の下した「翻訳」という概念は、「文体」というキーポイントに言及しなかったが、「翻訳者」という主語があるからこそ、翻訳とは何かという問題の解明に、翻訳の主体性という問題につながり、一つの新しい視野を開いたと私には思われる。

本論では、翻訳者の位置づけという問いの解明を求めているが、翻訳という概念を明らかにすることを通じて、翻訳者の位置づけを考えていこうとする。ただ、翻訳者はいかに「翻訳」という活動の中で位置づけを与えられたか、すでに申した「言語論的」、「文化論的」といった立場からではなく、まず「学問」、とりわけ翻訳学の立場から先行研究を検討しなければならないと私には思われる。

第二節 先行研究と問題意識

^① 蔡毅. 1995. 关于国外翻译理论的三大核心概念——翻译的实质、可译性和等值[J]. 中国翻译 (6): 7

^② 王克非. 1997. 关于翻译本质的认识[J]. 外语与外语教学 (4): 49

翻訳者の位置づけという研究の先行研究といえ、すでに話したように、翻訳者という概念は、あまり翻訳という概念の中に現れてなかった。だから、翻訳者の位置づけを考える場合、古来の翻訳論の視野からなかなか捉えられなく、現代の翻訳学の立場に目を移して考えなければならぬと私には思われる。

現代翻訳理論の流派の特徴を考える場合、一つの共通な特徴が取り上げられる。それは即ち、翻訳者の地位の向上ということである。たとえば、イギリスの翻訳学者ヘンマンス (Theo Hermans) は、「目的語文学の立場から見れば、翻訳はある目的によって原文テキストを操る行為を意味する」^① と言い、翻訳がテキストを操る独創的な活動であると主張している。それによって、この学派は「コントロール学派」とも言われている。なお、この学派のもう一人の代表人物であるベルギーの学者レフウェレ (Andre Lefevere) は、翻訳は書き直しであると定義を下している。今までの「翻訳」への理解と言え、どんな形式であっても、原文テキストを勝手に書きかえることは、原文を冒瀆するにほかならぬと思われていたが、レフウェレは、それを逆に、翻訳は一種の書き直しにほかならぬと考えている。さらに、目的語文化システムを表現する訳文は、原文より重要な役割を演じる、と氏は主張している。このような役割を実現させたのは言うまでもなく、翻訳者なのである。

「コントロール学派」と同じく、フェミニズム (Feminism) 翻訳理論は、翻訳者や訳文に注目している。伝統的な翻訳理論の中で、翻訳者はいつも女性と譬えられ、いくら努力しても男性 (原文作者) を満足させることができない。いわゆるきれいな女は不実であり、忠実な女はきれいなものではないというこ

^① Hermans, Theo. *The Manipulation of Literature: Studies in Literary Translations* [M]. New York: St. Martins Press, 1985. P9

とである。フェミニズムの翻訳学研究者は、今のような言い方に従えば、訳者と翻訳研究が低く評価されるどころか、女性さえも見下ろされる疑いがあると考え、それに激しく反対している。この学派の学者たちは、翻訳者が自分を従属的な地位に置かれ、伝統的な女性の役割を演じることによって、一生懸命原文と原文作者のご機嫌を取るという「差別」の考え方が正しくないと批判し、翻訳者を原文の作者と同じ位置にすべきであると強調し、翻訳者にもっと大きな権威と自由を与えるべきであると主張している。

フェミニズム翻訳理論だけではなく、ポストコロニアリズム (Post colonialism) の学者たちは、翻訳が共食いの性質がある活動であると考えている。彼らによれば、翻訳者の訳文が、原文を併呑し消化された上で作られるものにすぎない。真の意味での翻訳は、原文に追随するものではなく、原文を訳文の養分と看做して積極的に吸収し、それを一つの文化建設の力に働かす活動と理解すべきである。勿論、翻訳者はこの活動の実践者として外来文化を否定するのではなく、それを吸収して自国の言葉に置き換える時に、自国の文化要素をもその中に加えるべきである。それによって、翻訳者によって作られた訳文は、一層充実で豊かなものになるのである。

伝統的翻訳理論において翻訳者は、一つの隠された存在である。それに対して、コントロール学派、フェミニズム翻訳理論、ポストコロニアリズムという三つの学派を代表とする現代の翻訳研究理論において翻訳者の役割は、だんだん重視されるようになった。ただ、それは一つの核心的なもの、或いは主体性のあるものにはならなかった。翻訳者は、思考と創作の主体であるから、翻訳活動の主体にならなければならない。このような実践活動の主体、つまり翻訳者の問題を解決するには、さらに現代の翻訳研究理論、とりわけポスト構造主義の立場に深く立ち入り、それを明らかにしなければならない。

第三節 本論の組立て

本論は四つの章からなる。それぞれ、翻訳という概念の「多様性」、ベンヤミンの翻訳論、欧陽楨の翻訳論、翻訳者の位置づけというテーマで、翻訳者の位置づけをめぐる考察を行った。

まず、第一章では、言語学、文学的コミュニケーション、主体性的哲学という三つの立場から、翻訳の概念及びその周辺を論じてきた。その中で、伝統的翻訳理論を踏まえて、現代の翻訳理論の学説を中心に、「原文中心主義」から翻訳者の主体性へという転換を以って、翻訳学の発展するプロセスを把握した。

第二章では、ベンヤミンの翻訳論の名文「翻訳者の課題」をめぐる、ベンヤミンの言語論、とりわけ「純粹言語」と「器の断片説」を紹介し、さらに、その翻訳思想を「純粹言語」への解放、形式の再現、翻訳者と読者の関係という三つの内容にまとめ、読者の拒否、作者の重視、「純粹言語」への解放というベンヤミンの独特な学説を解明した。

第三章では、欧陽楨の翻訳論の主著『透明な目』を中心に、原作の権威性への疑い、文化的融合の媒介としての翻訳者、読者反応への関心という三つの立場から欧陽楨の翻訳論をまとめた。その中で、読者への関心は欧陽楨の翻訳思想の中でもっとも大きな役割を占めている。読者という外部からの視野があるからこそ、真の翻訳の評価が自己操作の枠組みを乗り越え、はじめて成り立つと言えるであろう。

第四章「翻訳者の位置づけ」において、まず「作者——原文——翻訳者——訳文——読者」という図式に従って、翻訳活動における二つの矛盾を明らかにし、翻訳者の位置づけをまとめた。即ち、翻訳者は、解釈者・翻訳者・評価者

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕士论文摘要库